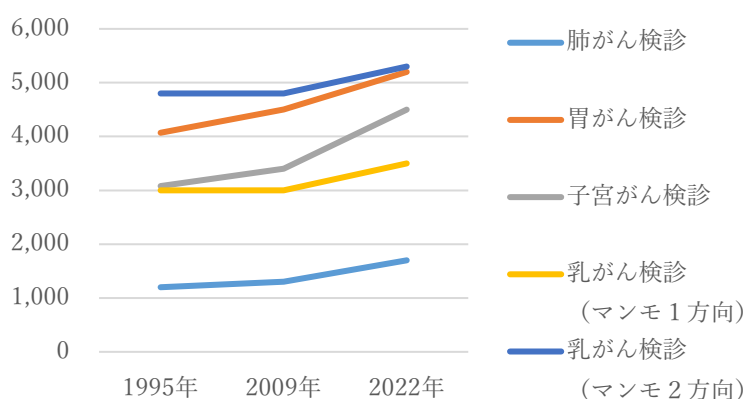


重要

令和4年4月以降のがん検診等の自己負担額が変わります

これまで委託料の値上げ(表1)があった中でも自己負担額を据え置いてきましたが、受益者負担の原則等を踏まえ、**委託料の約8割の公費負担を継続とし、自己負担額(表2)を見直しました。**なお、基本的な健康診査項目(尿検査・血圧・血液検査等)の**住民健診と肺がん検診(胸部レントゲン)**は、引き続き**全額公費負担**とさせていただきます。

(表1) 主ながん検診委託料の値上がり状況



検査項目	自己負担額 (約2割)	公費負担額 (約8割)
肺がん検診(胸部レントゲン)★	0円	1,870円
喀痰検査	700円	2,776円
大腸がん検診★	400円	1,360円
胃がん検診(バリウム検査)★	1,100円	4,620円
乳がん検診(マンモグラフィ1方向)★	800円	3,050円
〃 (マンモグラフィ2方向)★	800円	5,030円
〃 (超音波検査)	800円	3,050円
子宮頸部がん検診★	1,000円	3,950円
前立腺がん検診	500円	1,920円
肝炎ウイルス検診	700円	2,600円
腹部超音波検診	1,000円	3,180円
骨粗鬆症検診	500円	1,920円
乳がん検診(マンモグラフィ)★	1,500円	5,543円*
〃 (超音波検査)	1,000円	4,590円*
子宮頸部がん検診★	1,500円	6,713円
子宮頸部・体部がん検診	2,500円	10,636円
胃がん検診(内視鏡検査)★51歳以上	4,000円	12,820円
胃がん検診(内視鏡検査)★71歳以上	2,000円	14,820円

自己負担額が赤字の検査項目が変更になります。

がん検診は症状がない健康な方が対象ですので、何かしら症状がある場合は医療機関を受診しましょう。

約2人に1人ががんになる時代だからこそ、コロナ禍での受診控えはせずに、定期的ながん検診を受けることをお勧めします。



(表2) がん検診等の自己負担一覧表

★国が推奨しているがん検診で有効性(死亡を防ぐ効果)があるということが科学的に証明されている検診です。

※委託医療機関によって委託料が異なるため、平均値で算定した金額になります。

- 国が推奨しているがん検診は、**胃がん検診(バリウム検査もしくは内視鏡検査)が50歳以上の方に2年に1回、**
- **子宮頸部がん検診が20歳以上に2年に1回、乳がん検診(マンモグラフィ)が40歳以上に2年に1回、**
- **肺がん検診(胸部レントゲン)が40歳以上に1年に1回、大腸がん検診は40歳以上に1年に1回と**
- **されていますので、今後受診する際の参考にしてください。**